



学校だより



NO.5
東京女学館小学校
令和3年9月17日

おうい、雲よ

小学校長 田中均

朝、最寄りの駅まで自転車をこぐ間に、すっかり秋めいた空気を味わいながら、見上げると空模様も秋の空です。「天高く馬肥ゆる秋」の言葉のように、うるゝ状の雲が高く流れていく様は、これから学校に向かう私の気持ちをさわやかにしてくれます。私たちは今新型コロナウィルス対策に奔走していますが、あの雲の高さまではウィルスは広がっていないのだと、雲を見ているうちに妙な感覚に襲われました。

「おうい雲よ／ゆうゆうと／馬鹿にのんきさうじやないか／どこまでゆくんだ／ずつと磐城平の方までゆくんか」伝道師として激しく生き、詩壇でも前衛的な挑戦を続けてきた詩人山村暮鳥ですが、「だんだんと詩がへたになるので、自分はうれしくてたまらない」という境地に至った晩年・晩年と言っても暮鳥は41歳の若さで夭折しますの作です。

何かを極めようとして悩み苦しんだ挙句、平凡な言葉に行きついてしまふ、それでもそれをうれしく感じる。私たちが流れる雲への共感につながっているのでしょうか。私たちは毎日のちっぽけなことに一生懸命になつていかなくてはならないのです。どんなに気分や感情が揺れ動いていても、やらなければならないことはやめていかなければならない、それでないと生活は成り立たないからです。ささやかな今日があればこそ次のささやかな明日がやってきます。

「あの雲を見たまへ。／地面から立つ水蒸気の冷えてできた／小さな、小さな水玉の集団がああ雲だ／大空のあそこからあそこまで、／なんといふ大きなかたまりだらう。／なんといふつばさだらう。／見てあるうちに形をかへて／ぐんぐんと進んでゆく。／太陽に色どられた空中のバレット／光とかげの運動会。／雲には雲の規律があり、／山にかかる形や位置まで／ちやんと天気予報をする。／小さな、小さな水玉が／あんな大きな力を出す。／あの雲を見たまへ。／雲はいいなあ。／おもしろいなあ。」（高村光太郎「雲」昨年6月花巻市内で発見されました。原文標記は旧字体。）

来週から子どもたちの登校が始まります。2学期に入つて初めての登校です。小さな水滴のような一歩を大切にしたいと思います。



令和3年度 2学期 スタート

オンライン授業

みづめ
といかけ
みみを かたむけ
えがお いっぱいの先生たち



今も毎朝花開く
一年生の朝顔



2年生の育てたピーマン
とっても丈夫に実っています

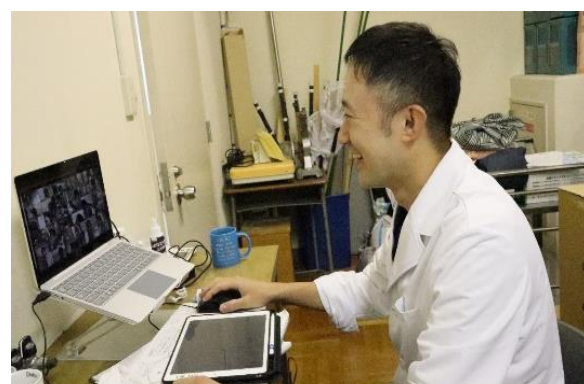
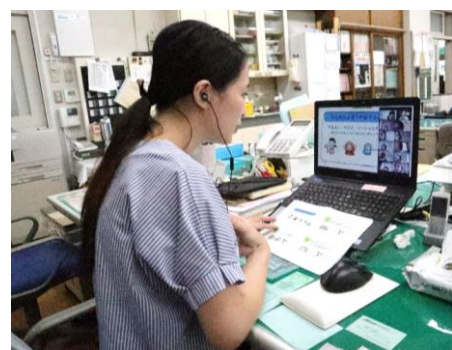
夏休みも毎日豊作
先生たちの食卓にいろいろと
栄養をそえてくれました



4年生のへちま
第一号が誕生しました



グリーンテラスのヒマワリ
なんつぶ種ができたでしょう



みんなに会えるのを
楽しみにしています
しばらくはえしゃくで
お過ごししてね